

2015年日本物理学会秋季大会 領域8 インフォーマルミーティング議事録

開催日時：2015年9月18日（金）12時30分～13時30分

開催場所：関西大学千里山キャンパス DC会場

出席者：

領域代表（任期 2015/4 - 2016/3）：遠山 貴己（東理大理）

運営委員（任期 2014/10-2015/9）：川崎 慎司（岡大理）、酒井 志朗（理研）、
下 舜生（東大院工）、浅井 栄大（産総研）

運営委員（任期 2015/4-2016/3）：谷田 博司（広大院先端物質）、酒井 英明（阪大院理）、
町田 洋（東工大理）、池内 和彦（CROSS）

次期運営委員（任期 2015/10-2016/9）：八島 光晴（阪大基礎工）、三澤 貴宏（東大院工）、
清水 直（理研）、太田 幸宏（原研）

13時10分頃の出席者数：22名（上記の者を含む）

議題1：2015年秋季大会サマリー

1-1. 領域8からの提案講演・シンポジウム（6件）

招待講演 9月18日 13:30～14:00 DA会場

講演者 松本洋介（東大物性研） 提案者 三宅和正
「籠状物質 $\text{PrV}_2\text{Al}_{20}$ における多極子2段転移と重い電子超伝導」

企画講演 9月18日 15:15～15:45 DB会場

講演者 吉澤正人（岩手大院工） 提案者 遠山貴己
「鉄系超伝導体の弾性的性質」

企画講演 9月18日 15:30～16:00 DA会場

講演者 松本圭介（広島大院先端） 提案者 遠山貴己
「立方晶カゴ状化合物 $\text{RE}\text{T}_2\text{Zn}_{20}$ ($\text{RE}=\text{La, Pr}$, $\text{T}=\text{Ru, Rh, Os, Ir}$) が示す結晶構造・
電気四極子・超伝導転移」

チュートリアル講演 9月17日 13:30～14:30 DA会場

講演者 有田亮太郎（理化学研究所 創発物性科学研究センター）
提案者 永長直人
「超伝導転移温度の非経験的計算の最前線」

シンポジウム 9月16日 13:30~17:00 DB会場 (領域 8, 4)

提案者 柳澤孝 (産総研)

「近藤効果研究の進展 -近藤論文 50周年記念シンポジウム-」

シンポジウム 9月17日 13:30~16:50 DB会場 (領域 8, 3)

提案者 森茂生 (阪府大院工)

「複合自由度が生み出す巨大エントロピーとその制御」

1-2. 合同開催の提案講演・シンポジウム (9件)

招待講演 9月16日 13:30~14:00 CG会場 (領域 3, 7, 8, 11)

講演者 細越裕子 (大阪府大理)

「有機磁性体による低次元量子スピン系研究の最近の展開」

招待講演 9月18日 10:45~11:45 CE会場 (領域 5, 8, 3)

講演者 関山明 (阪大基礎工)

「偏光依存性角度分解内殻光電子分光による強相関電子系基底状態の決定」

招待講演 9月18日 9:45~10:30 CS会場 (領域 6, 4, 8)

講演者 田仲由喜夫 (名大工)

「アンドレーエフ束縛状態の物理」

招待講演 9月18日 10:30~11:00 CS会場 (領域 6, 8)

講演者 青山和司 (阪大院理)

「表面散乱が誘起する空間変調した超伝導・超流動状態」

シンポジウム 9月18日 13:30~17:00 CG会場 (領域 3, 7, 8, 11)

提案者 野尻浩之 (東北大金研)

「量子スピン液体の最近の発展」

シンポジウム 9月17日 13:30~16:50 BB会場 (領域 4, 3, 8)

提案者 野村健太郎 (東北大金研)

「新奇トポロジカル物質・トポロジカル現象の探索、新展開」

シンポジウム 9月17日 9:00~12:15 CF会場 (領域 5, 7, 8)

提案者 沖本洋一 (東工大院理工)

「金属状態の超高速コヒーレンス制御と励起ダイナミクスの新展開」

シンポジウム 9月18日 13:30~16:55 CS会場 (領域 6, 1, 8)

提案者 白濱圭也 (慶應大理工)

「多自由度性が織りなす異方的超流体の新しい物理」

シンポジウム 9月16日 13:30~17:00 BB会場 (領域 7, 8)

提案者 山本浩史 (分子研)

「強相関係での電荷揺らぎの物理の新展開： π 電子系とd電子系」

1-3. プログラム編成

講演数：口頭発表 308 件、ポスター239 件 計 547 件

(参考：物性全体 2640 件、学会全体 3509 件、

2015 年年次大会の領域 8 の講演数 566 件)

全領域で最も多い講演数 (2 番目は領域 11 の 392 件)

ポスターに関して：

- 低温のポスターは、これまで通り最終日午前に領域 6 と合同開催。
恒例にしていると思うが、会場によっては合同開催出来ない場合もある。
⇒事務局が調整するので事務局任せでよい。
- 一つのグループから 4 つの講演が申し込まれており、その 4 つに対して連続講演の希望がされていたが、“連続講演の順番が一意的に決まらない”状況があった。
⇒著者に要望を聞く。基本的には、著者の責任大。申込時注意するように啓発したほうがよい？

口頭発表に関して：

- 会場は CD (170 名)、DA (273 名)、DB (456 名)、DC (90 名) を使用。
- 毎日 4 セッション平行で走らせた。
- 大きな教室が取れたので調整が比較的楽だった。
- 大阪開催だったので、最終日午後も遠慮せずセッションを入れた。
- 理論のセッションは領域 11(先方からの依頼)と重ならないように配慮した。
- 出来るだけ分野が平行で重ならないよう留意した。
- Ir 化合物に加えて、Ru 化合物で同じ物理があったので、行き先を確保するために「スピン軌道物理」セッションを新たに設けた。

反省点と今後の対策

(反省点) シンポジウム開催日の決定が遅れた。他領域との合同シンポジウム(領域8が合同領域に指定)について、主催領域より日時の指定と、領域8主催シンポジウムとの重複開催(日時指定)を遠慮するよう要請があった。当時領域8は開催日時を決める前だったので、要請を受け入れた。結果、領域8主催シンポジウムの日程調整が難しくなってしまった。

⇒

(対策) 領域8は講演数最大でプログラムの自由度が最も少ないことに留意し、シンポジウムの開催日は速やかに決定する。具体的にはシンポジウム採点後の会場アンケートの段階で開催日を決め、各領域(領域8との合同開催シンポジウムをもつ領域)に連絡したほうがよい。また、重複登壇者についても、できるだけ速やかに日程を決める。シンポジウムは多くの提案が午後開催希望だが、提案者に問い合わせて、午前開催が可能となればプログラム編成がかなり楽になる。

(反省点) 他領域との調整に気を使いすぎたため、一部のプログラムがタイトになった。

⇒

(対策) 最終日を積極的に使う。

(反省点) 講演申し込み時に学生の実ミスで無関係なキーワードを選択しているケースがあり、プログラム編成の際に気が付かず、セッションで浮いてしまった。

⇒

(対策) プログラム編成の時は、基本的には選択されたキーワードで振り分けるが、出来るだけアブストラクトまで目を通す。但し、この件に関しては基本的には著者の責任大。申込時注意するように啓発したほうがよい？

議題2：領域委員会（H27年5月開催）報告

領域代表から以下の事項についての報告がなされた。

2-1. 英語講演について

セッションに英語講演が含まれる場合は、スライドを英語で作成してもらうことが推奨されている。講演者への依頼を検討。

2-2. 概要集について

今大会から講演概要の pdf ファイルをセッションごとにまとめてダウンロードすることが可能になった。

2-3. 若手奨励賞について

2つ以上の異なる領域での重複受賞の是非について議論がなされ、以下のように実施要項「(9)」を変更することになった。

(現行)

過去に本賞受賞経歴がある者の再受賞は認めない。また、申請時に自薦による複数領域に応募は認めない。他薦により複数領域で候補者となった場合は候補者が一つの領域を選択するものとするが、本規定等により受賞候補辞退者が出た場合でも、それによる繰り上がり受賞はないものとする。

⇒

(変更:下線部分を削除)

過去に本賞受賞経歴がある者の再受賞は認めない。また、申請時に自薦による複数領域に応募は認めない。受賞候補辞退者が出た場合でも、それによる繰り上がり受賞はないものとする。

2-4. 領域4の領域名略称の変更について

領域4から、略称名変更の希望が出され承認された。

(現行) 「半導体、メゾスコピック系・局在」

(変更案) 「半導体、メゾスコピック系・量子輸送」

議題3：若手奨励賞（領域8）募集要項の改訂について

領域代表から上記の領域委員会での議論に基づき、若手奨励賞募集要項の「4. 申請の方法と提出書類」について、以下のように改定することが提案され、承認された。

(現行)

申請は自薦および他薦による。提出書類は、自薦あるいは推薦理由書（2,000字以内。英文でも可。研究の意義と独創性、本人の寄与、他分野へのインパクト・波及効果などの記述にも留意すること）、履歴書、発表論文リスト、受賞候補論文の別刷りあるいはコピー（3編以内）。これらの書類の電子ファイル（pdfファイル）をCDで審査委員長まで郵送するか、または電子メール添付で審査委員長まで送ること。

(変更案：下線部分を追加)

申請は自薦および他薦による。提出書類は、受賞対象研究名、自薦あるいは推薦理由書（2,000字以内。英文でも可。研究の意義と独創性、本人の寄与、他分野へのインパクト・波及効果などの記述にも留意すること）、履歴書、物理学会会員番号、発表論文リ

スト、受賞候補論文の別刷りあるいはコピー（3編以内）。これらの書類の電子ファイル（pdfファイル）をCDで審査委員長まで郵送するか、または電子メール添付で審査委員長まで送ること。

この変更に伴い、ウェブ上の領域8（強相関電子系分野）ホームページにおける若手奨励賞募集要項の記載も更新することとした。

議題4：領域8講演終了時間と拡大物性委員会の開催時間について

物性グループ・物性委員会事務局から拡大物性委員会の開催時刻について以下のような意見が寄せられた。

「物性グループの幹事会で、拡大物性委員会の開催時間が18時～20時は如何にも遅いものではとの指摘がありました。以下、各領域のIMなどで、ご検討頂けませんでしょうか。拡大物性委員会（これまでは、年会では2日目、分科会では1日目、18時～20時）となっております。これは、年会、分科会によらず開催日（初日、あるいは、2日目）を固定して、開催を17時30分～（あるいは、17時～）と早めることが考えられます。これには、物性関係の各領域のプログラム編成と当日の終了時間でのご協力が必要です。各領域で対応可能か、困ることはないのか、ご検討くださり、結果をお知らせ下さいますと深甚です。」

これについて、領域8からは以下のような回答をすることとした。

- ・ 領域8は講演数が多く、終了時間を固定してしまうとプログラム編成上問題が生じることも考えられる。ただし、プログラム編成時に若干の考慮をすることは可能かもしれない。
- ・ プログラム編成後に問い合わせ頂ければ、終了時間を知らせることは可能である。

議題5：新領域運営委員（任期2015/10-2016/9）の自己紹介

以下の新領域運営委員の自己紹介があった。

（磁性） 八島 光晴（阪大基礎工/実験）

三澤 貴宏（東大院工/理論）

（低温） 清水 直（理研/実験）

太田 幸宏（原研/理論）

議題6：次次期領域運営委員（任期2016/4-2017/03）の推薦および承認

領域代表から、以下の次次期領域運営委員の紹介があり承認された。

（磁性） 近藤 晃弘（東大物性研/実験）

那須 讓治（東大院理工/理論）

(低温) 石田 行章 (東大物性研/実験)
北川 俊作 (岡山大理/実験)
足立 匡 (上智大理工/実験)

その他：任期 2015/4-2016/3 の運営委員の役割分担 (会議後の報告)

以下のように決定した。

運営委員代表：酒井 英明 (阪大院理)

運営委員副代表：谷田 博司 (広大院先端物質)

メーリングリスト、Web 担当：池内 和彦 (CROSS)

書記：町田 洋 (東工大)、松浦 弘泰 (東大理)